

支援機器等教材活用実践事例フォーマット

実践年度・タイトル		令和3年度 デジタル教科書「国語 光村図書 あおぞら」を使った国語科の授業
授業について	教科名等	■国語 □社会 □算数/数学 □理科 □生活 □音楽 □図画工作/美術 □家庭/技術・家庭 □体育/保健体育 □特別の教科 道徳 □外国語/外国語活動 □総合的な学習の時間 □特別活動 □自立活動 □各教科等を合わせた指導 □その他の教科 □その他(生活・身辺自立・行動の切り替え)
	単元・題材名	ありの行列
	授業の目標	・文章を読んで、「問い」と、その「答え」を見つける。 ・段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えることができる。
	学力の3要素	□「知識及び技能」 ■「思考力・判断力・表現力等」 □「主体的に学習に取り組む態度」
学習集団と子供の実態	学校・学部・学年・人数	□通常の学級 □通級による指導 □特別支援学級 ■特別支援学校 □就学前 ■小学生 □中学生 □高校生以降 □特定されない (3)年 (4)人
	対象の障害	□視覚障害 ■聴覚障害 □知的障害 □肢体不自由 □病弱・身体虚弱 □言語障害 ■自閉症 □情緒障害 □LD(学習障害) □ADHD(注意欠陥/多動性障害) □その他
	子供の困難さ	■見ること ■聞くこと ■話すこと ■読むこと ■書くこと ■動くこと □コミュニケーションをすること □気持ちを表現すること ■落ち着くこと・集中すること ■概念(時間、大きさ等)を理解すること □学習(計算、推論等)すること □その他
支援機器等教材の活用について	活用の意図	Aコミュニケーション支援(□A1意思伝達支援 □A2遠隔コミュニケーション支援) B活動支援(■B1情報入手支援 □B2機器操作支援 □B3時間支援) C学習支援(■C1教科学習支援 □C2認知発達支援 □C3社会生活支援) D実態把握支援(□D1実態把握支援) 児童たちは第一言語が手話であり、日本語の文や文章に対して難しさを抱えていたが、少しずつ文の読み書きに興味や関心を持つようになってきた。問いとその答えをしっかりとおさえて説明文を読むことで、今まで知らなかったことを知ることができる面白さに気づき、国語の学習にさらに意欲的に取り組めるようになってほしいと考え、デジタル教科書を活用した。
	使用した支援機器等教材の名称と画像	デジタル教科書「国語 光村図書 あおぞら」、テレビモニター
授業展開	授業展開・支援の手立て	<デジタル教科書を活用するときいつも行った支援> ・文を読むときには、どこを読んでいるかがわかるように印をつけて示す。 ・語彙を増やすことを大事にし、デジタル教科書の本文中の言葉に、マーカーをつけてはっきりと示した。児童にも、教科書の文中の語句に印をつけさせ、視覚的なイメージや動作、手話とを結びつけて意味が理解できるようにした。 ・ノートの書き方を決め、言葉と意味と一緒に書き残せるようにした。 ・読み取ったことや考えたことを文にした板書を、児童がノートに残せるようにした。 <学習の流れと支援> ①題名を見て、何について書かれた文章かをイメージする。 ・「あり」「行列」・・・経験を想起し、手話とむすびつけて言葉の意味をおさえる。 ②文章を読んで問いをつかむ。 ・見えにくい状態では行列が作れないことを、子どもたちに経験させることで、ありはものが見えていないのに行列が作れるのはどうしてなのかと疑問や興味を持たせられるようにした。 ③段落ごとに情報を読み取り、問いの答えを見つける。 ・文章とデジタル教科書の資料映像、挿絵を示すことで、書かれている内容をつかめるようにした。 ④段落ごとにコマ割りをして漫画にし、場面の様子やありの行動を絵に描いたり、吹き出しの言葉を考えたりして、わかったことをまとめた。
効果・評価	子供の様子や変容および授業の評価	・教科書をそのまま写せるので、児童がモニターに映された画面と自分の教科書とを対応させやすかった。印刷したものよりも、鮮明で興味を引くため、児童が目をよく向けていた。 ・教科書や資料から読み取ったことや、考えたことを板書した。 ・デジタル教科書の挿絵や動画資料を活用したことで、児童がイメージを持って、文章を読み取ることができた。学習のまとめで、段落でコマ割りをして、漫画のように表現させると、活き活きと取り組む姿が見られた。文章の内容に合った絵や台詞が書かれていた。文章を読むことは面白いことだと、児童に満足感をもたせることができた。